

第 1 回生田原地域まちづくり会議議事録

日時	令和2年3月16日(月) 18:30~20:50	
場所	生田原総合支所第1会議室	
出席者	由利会長、大柳副会長、桑山委員、森委員、中野委員、遠藤委員、高橋委員、三浦委員、 生田原総合支所 門脇支所長、総務部企画課 佐藤課長、中原主幹	
欠席者	なし	
次第	発言者	発言要旨
1 開会	企画課	只今より令和元年度第1回遠軽地域まちづくり会議を開始する。議事進行について、会長に願います。
	委員	世の中はコロナウイルス一辺倒で、正に身近な危機となっているが、一人ひとり衛生に気を付けながら、いずれ収まることを待ちたい。なりゆきで会長ということだが、自分も発言をしたいし、フランクな雰囲気集まりにしたいのでよろしく願います。早速、企画課から話題提供をお願いします。
2 企画課 話題提供	企画課	別添資料に基づき話題提供
	委員	公共施設といっても、それぞれの使い勝手が違うので一緒にならない。
	委員	「かぜる北」と「かぜる南」は統合できるのではないか。
	委員	「かぜる北」は新生自治区の集会場として、「かぜる南」は南自治区の集会場として整備された。「かぜる西」と「かぜる安国」は元々葬式会場として作っている。それを統合するというのは意味がわからない。スクラップもいいが、なぜこの施設が作られたかを確認してほしい。
	企画課	利用実態や今後の使い方を含めて総合的な判断でやっていくべきだと考えている。
	委員	公共施設を赤字だからやめますというが、公共施設というのは税金を投入して維持していくもの。赤字じゃなかったら民間がやる。
	企画課	地域の実態に応じた適正な施設のあり方を目指していきたい。
	企画課	工夫によって、「これとこれを合わせて2つを1つにしたい。」など考えられるのではないだろうか。地元の声は反映させなくてはならないと思うが、今まであったからというのは、切り替えて考えていただきたい。
委員	支所の建物は維持していくのか？いつ来ても、人は少ないし、寒々としていて、役場職員の活気みたいなものが伝わってこない。もっと集約して、20年後を見据えて投資してはどうか。基金がゆるやかに右肩下がりということだが、人口も減っていく中で、そんなに基金をため込んでないで、この地域で一生を終えようという人	

	たちのためにお金を使っただきたい。	
企画課	取り崩しを毎年やっていくと、立ち行かなくなる。基金も 50 億円ぐらいいはないと不安があると思う。その辺で均衡すればいいのだが、傾向を見るとちょっと下がっている。	
委員	身の丈にあった基金残高でいいのではないか。20 年後を考えたら、この建物（支所）でいいのか？なくすのではなく、こじんまりでいいから、老若男女みんなが集えるコンパクトに集約した誰もが使いやすい核となる施設をつくれないうか。	
委員	建物の建築年数や構造も考慮して考えて行く必要があると思うし、壊すばかりでなく、収入を得たり、リノベーションをするなどしてプラスの方に有効活用できないか。遠軽の子どもたちはグラウンドの取り合いということも聞くので、遠軽の子どもに生田原の施設も使ってもらうのが現実的ではないか。	
企画課	もちろん、建て直すのか、直して使えるのかなどは施設ごとに検討して行かなければならない。コンパクトに集約するという意見もあったが、複合化も必要。公共施設保有量を人口に見合ったものにしていくには、ある程度まとめて小さくするというのを考えて行かざるを得ない。	
委員	収入の確保とあるが、企業の誘致は考えていないのか。	
企画課	考えているが、土地の問題や労働力の確保といった課題がある。	
委員	補助金も出しているのか。	
企画課	補助金も税金の免除などもある。ただし、その財源をどうするかという問題もある。	
企画課	今、一番企業が求めているのは労働力確保。そういう意味では今はちょっと厳しい状況。	
3 意見交換	委員	話題提供に関する質疑は以上でいいか？では、もう少しだけ形の意見交換に移りたい。活力に満ちゆとりと豊かさを実感できるまちというのは皆さんにとってどんな町か思うところをお話しいただきたい。
	委員	子どもがいるので、「子どもが元気に育つ」というキーワードが気にかかる。例えば、生田原や丸瀬布にアスレチックやボルダリングのような、子どもたちが「あそこに行きたい。」という施設があつて、それを全部クリアすると・・・といったように。今、このご時世で家の中にこもりがちになるが、子どもたちがストレスを感じている。親御さんも「大変だ。」と言っている人が多い。やはり、子どもが元気に育つというと、体を動かせる、ちょっとアプローチを変えた施設がほしい。理想的なことしか言えないが、子どものはしゃぎ声が聞こえることが、町のにぎわいだというイメージを持っている。お年寄りも子どもの元気な声を聞いて、気持ち

	<p>が若返るといふということもよく聞く。「子どもが元気に育つ」についてもっと詳しく考えて、お母さんやお父さんの口コミの力はすごいので、そうなるちょっと行ってみようかとなると思う。あわよくば、気に入って住んでくれる人もいるかも知れない。</p>
企画課	<p>「子育て世代の方が子どもを育てやすいまち」ということだと思う。そうしたイメージを出し合ってもらって、それを深めていくと提言につながると思う。</p>
委員	<p>まず、子どもが少ない。過激だが、片親の家庭を優遇して人口を増やしては。そのためには企業誘致なども必要かもしれないが、ちょっとニッチな、変わった方向で攻めてはどうか。</p> <p>正直言って、丸瀬布や白滝に比べて生田原の将来が描けないという思いがある。何かに特化しているイメージがない。遠軽町の中での役割という意味では、観光の丸瀬布、生田原は何？と言ったときに、何も無い。逆に、遠軽町の中のチャレンジの場として、特区のような場にしてはどうかと思う。安国は遠軽のベットタウン化しており、そういうものが生田原にはない。何を目指していくかということだが、それぐらい過激にやってもいいのではないかな。</p>
委員	<p>本当に子どもの絶対数が少ない。いくら子どもが元気になっても、どんどんさびしい生田原になっていく。ここに未来はないから遠軽に家を建てて住むといっただいなくなる人が何件もあった。ずっとここに住もうと考えている者からしたら、すごくさびしい。子育てしやすく、心が豊かになる部分もあって、いいところあるのに私は外から来たので思うのだが、そういうネガティブなイメージをポジティブなものに変えたい。例えば、公共施設を廃止して、廃墟にしてしまうなら若者に開放してイベントをするなどを考えられないか。</p>
企画課	<p>受け入れて使ってもらえる人がいたら、それはいいことだと思う。白滝の支湧別の小・中学校も移住してきた人たちに貸して、パンづくりや犬ぞりをやっている。違う目的で使ってもらうことはできる。</p>
委員	<p>前に美唄のアルテピアッツアに行って楽しかった思い出がある。子どもたちも喜んでしたが、50~60歳代の方も来ていた。そういうことができたなら楽しくなると思う。とにかく知ってもらうことが大事で、そのための何かがある。</p>
企画課	<p>アルテピアッツアは、NPO 法人が運営していたと思う。有効に活用してもらえらるなら、建物を無償で使ってもらうことも可能。企業誘致の話もあったが、企業でもいい。ただ、直すのにいくら出してくれとなると従来と変わらない。使って経済活動などをしていただくのは理想的。</p>
委員	<p>イベントで役場の方のやる気のなさが見える。町職員がみんなを引っ張るような</p>

	意識を持って行動してもらいたい。遠軽の千人踊りやコスモスフェスタでもしっかりやっている人もいれば、ダラッとしている人もいて、「遠軽の人ってやる気がないんだな」とか「この人は町のことかंगाえてやっているな」とか、そんなイメージがあるので、活気を与えるような意識を持ってやってほしい。それが町のイメージになって、「生田原には何も無い」と思うきっかけの一つにつながっているのかなと思う。
委員	手伝わされている感がある人は確かにいる・・・
委員	皆がみんなではないが、積極的にあいさつするとか、イベントを盛り上げることが必要。団結力を見せるなどあると思うが、そういうことが欠けているのを見ると「何を言っても変わらないのかな？」という印象を持ってしまう。役場職員のやる気が伝われば、町の人々の意識も変わると思う。
委員	時期的に毎週イベントがあり大変だと思うが、確かに・・・と思うところがある。
委員	マイナスが一人いれば、そうでない人が100人いてもそういう印象になってしまう。色んなイベントに行っても実行委員がたばこを吸っていたら「何やっているんだろう」と思う。
委員	確かに子どもの絶対人数が少ない。太鼓の新メンバー入れようとなっても子どもがいらない。若い人もいないので消防団員も厳しい。そこで、企業来ないの？となる。
委員	生田原に移り住んでくれる人には町の住宅をタダにするとか・・・
委員	生田原は足がない、交通アクセスが悪いということがよく言われる。
委員	子育て世代は車がないと生田原ではやっていけないので、来ていただけたら車を無償でレンタルしますというのはどうか。レンタルだと出られない。先ほどの話を聞いて思ったが、芸術家が活動する場を提供するのもいい。生田原のビジョンが見えないので、そういう人の周りに人が集まるのではないかな。
委員	予算を抜きにして生田原地域をどのようにしたいと考えるといろいろアイデアが出るのではないかな。人口を増やすのであれば、空家を無償で提供するとか、子ども子育て世代には医療費無料だとか、そういう大胆なことをやらないと人口は増えない。
企画課	遠軽地域の方からは生田原は福祉の町というイメージがある。遠軽地域まちづくり会議でも4つの地域が役割分担してはどうかという話があり、生田原は福祉をメインにしてはという意見も出たところ。皆さんの中ではそういった意識はないのだろうか。
委員	おじいちゃん、おばあちゃんを集めるのはいいが、民間企業なので企業誘致でなんとかなるものなのか。方向としては大賛成。福祉施設兼支所ということになればい

	いのではないか。
委員	<p>福祉に特化していいと思う。白滝のほのぼのという施設は一人ひとりがアパートのように暮らしていけるが、社協の事務所も入っていて安心して生活できる。自由にできるが、一人じゃ心配という人が入っている。生田原にもそういったものがほしい。社協の事務所が移ったときには、デイサービスもやるということだったが、赤字続きでここ（支所）に戻ってもいいと思っている。プライムもあるので、ちょっと大変かなと思ったら皆施設に入ってしまうが、ああいったものがあれば、一人で暮らしていける。</p> <p>ただ、買物するところがない。お年寄りからよく聞くのは遠軽に買物に行きたいということ。週に1回買い物ツアーをしてはどうか。介護保険ではできないので、町でやれないだろうか。デマンドタクシーも遠軽まで行けないので不便。社協に委託してくれてもいい。</p> <p>子どもも若い人も少ない。企業誘致も難しい、人口増も望めないとなれば、もう少し観光に力をいれたらどうか。やまべ釣りは知る人ぞ知るというものなので、由利さんのような釣りの講師がいるよということで売り出せないだろうか。</p> <p>支所の建物ももったいないので、げんき21のようにもっと色んな人が集まる使い方ができるといい。支所に集めて集会室が何個かあるとか、直してみてもどうか。何か一つでもできるといいと思う。</p>
企画課	移動販売は来ている？
委員	来ているので食料品はそれで間に合うが、衣料品などは遠軽となる。
委員	あとはQOL（生活の質）の問題。誰もが選んで買いたい。
委員	宅配のチラシも字が小さくて見えない。移動販売車の場所までいくのも大変な人もいる。
委員	<p>説明を聞いて衝撃を受けた。財政を先に言われてしまうと、夢を語っても、現実にはできないとなると意味があるのかという気もする。</p> <p>町の職員のやる気の問題については、すごくあるなと感じる。そこからお金をかけずに活力を出して役場が先頭に立ってやってくれるようでないといけな。</p> <p>A コープについても風前のともし火と思ってもらっていい。本来は地産地消であるべきだが、地元のお客さんも少なくなっている。どんどんお店がなくなる中、プレーキをかけなければと思う。地産地消をお願いしたい。</p> <p>息子が地元に戻ってきて一緒に農業をやることになった。22歳の息子が仕事以外に遊べるとか、ストレスを解消できるものがほしい。自分は若いころ野球をやっていたが、今、生田原にはチームがない。何かそういったものを整えてあげたい。</p>

	町にはお金がないということで大変だが、役場の中ではこのような町をこうしたらいいとか、財政をどうするといった会議はあるのか。職員が上下関係を抜きにして語れるような。
企画課	定期的なものはないが、管理職の会議はある。町の課題とか、町長からの話がある。それを下に伝えている。
委員	役場職員も町民。町を良くしようということで意見を出してもらいたい。
委員	職場内コンペを開いて上下の関係なしに発表する。優秀な発表をした方には期末手当を付けますといったらやる気が出るのでは。
企画課	一応、提案制度というのはある。
委員	ふるさと納税で魅力的な商品をつくれないだろうか。財政が苦しいのなら、そこで何か野菜、農家さんの牛乳とか、加工品でも作ってPRできないだろうか。
企画課	丸瀬布の会議でも出たが、紋別はアイテムが300ぐらいあるのに対し、遠軽は50弱ぐらい。むやみに増やせば寄附も増えるのではないかとの意見があった。確かにそうかもしれない。
委員	やはり海産物にはかなわない。
企画課	海産物も4月から扱うということで進めている。
企画課	今の主力はアスパラとじゃがいも。それで大体半分を占めている。
企画課	アスパラは生産量が頭打ち。他で稼ぐ必要がある。
委員	ふるさと納税は寄附すると控除になるが、その収支はどうなっている？
企画課	先日雑誌に出ていたが、遠軽町は若干赤字になっている。比較的、都市部がそういう傾向にあるが、遠軽はそういう状態。
委員	出る方を止めることはできないので、寄附を増やすしかない。
委員	遠軽町では、カタログを作っているのか。
企画課	手作りのパンフレットみたいなものはある。ホームページにも掲載している。
委員	ホームページだと「遠軽町」と打たないと出て来ない。前に津別町のカタログみたいなものを見て、「なんてすばらしい」と思った。紙の媒体の威力は大きいので、道の駅などに置いておくといい。おしゃれなカタログをぜひ作ってほしい。
企画課	来年度、商工会議所にふるさと納税の受付、返礼品発注業務を委託することになっている。その中でパンフレットの印刷費の予算を見ているところ。
委員	コト消費でいうと、遠軽町ではどんなものがあるのか。
企画課	白滝の乗馬体験、2泊3日でマウレ山荘に泊まって町を観光していただくツアーがある。
委員	農業体験なんかいいのでは。

委員	うちではアスパラをやっているが、小中学校や大学生が来たりして、ハウスの中でアスパラを採って帰るということを年間に何回かやっている。	
企画課	丸瀬布の会議でも雨宮号の助手席に乗れる権利というアイデアも出た。	
企画課	先ほど出たガイド付きでやまべ釣りができるというのもいい。	
委員	砂金掘り体験とか。	
企画課	意外なものが結構出る。	
委員	ふるさと納税の返礼品開発も一つテーマになる。昔の生田原の特産品と言えば、何だったか。	
委員	きのこの町とうたっていた。	
企画課	今、和牛があつたら相当人気が出ると思う。	
委員	今も何軒か黒毛和牛をやっているところがあるのではないか。	
委員	仕上げまではしていないと思う。	
企画課	白滝の牛肉は、一度東京に出たのを買い戻すとのことで、地元だから安く手に入るということにならないとのこと。	
委員	鹿肉とか。	
企画課	ジビエの施設については、今、町内で計画されているところがあると聞いている。	
4まとめ	委員	そろそろ時間だが、どうやってまとめたらいいか。
	企画課	いくつかキーワードがあったと思う。「子育てしやすいまち」「施設や空家の利活用」「公共交通」「買物」「福祉のまちづくり」「若者が遊べる場」など。次回掘り下げるに当たり、これらの中からいくつかに絞ってもらいたいと思う。
	委員	次回は新年度に入ってということだが、いつごろ開催がいいかということと、テーマを絞っていくことについて、意見をいただきたい。
		(開催時期は、6月前半頃に決定)
	委員	テーマは「子育て」「施設・空家のリノベーション」「福祉のまち」「役場職員のやる気をどう出すか」「ふるさと納税」「若者がやりたいことができる環境づくり」などテーマを絞りたいが、どれも大事だと思う。
	委員	「買物の足の確保」がこれから重要ではないか。
	委員	「子育て・若者対策」「お年寄りに向けた対策」にまとめてはどうか。
	委員	いいと思う。問題が複合的なので。
	委員	「ふるさと納税」は？
	委員	もしかしたらお年寄りの活力を生かしていいアイデアが出るかも知れないので、それも入れて3つにしたらいいいのではないか。
	委員	資料など用意してもらいたいものはないか。

企画課	資料として、まちの子育て対策をまとめてみる。お年寄りの方は「公共交通利用ガイド」というのを作ったので、それは用意できると思う。お年寄り対策はどういう方向で掘り下げるかによる。
委員	丸瀬布や白滝のお年寄りは買物をどうしてるのだろうか。バスを利用しているのだろうか。
企画課	丸瀬布～遠軽間はバスが1日4往復。白滝は移動販売や宅配を利用していたり、週3回丸瀬布への往復バスがある。はっきり言って丸瀬布、白滝に比べたら、生田原の方がJRも多いし、バスもあるので状況はいい。白滝は商店がなくなっているが、前のまちづくり会議でも買い支えは難しいという話になった。
委員	月に1度、町のバスで遠軽のスーパーまで送迎してくれるとかはできないか。
企画課	それも意見が出たときに考えたが、既に民間バスが走っている。基本的に町のバスはイベントなど町が主催する事業などに限って運行することになっている。
委員	次回は「老人の買物支援の方策」ということで。先進事例なども調べていただければ。その他何かないか。
企画課	総合計画について全体会議の時に意見をいただいたが、意見に対する町の考え方の資料をお配りしているのでご覧いただきたい。
5 閉会	委員 以上で、会議を終了する。

20 : 50 頃終了